

発刊にあたって

淑徳大学学長 長谷川 匡俊

本学では2005（平成17）年3月（財）大学基準協会より大学基準に適合している旨の認証を受けたのを機に、自己点検・評価を不断に実施し、かつ大学としての年間の教育・研究・社会貢献に関する事業や活動、各種の大学基礎データを記録に残して今後に役立たせるべく、「淑徳大学年報」を毎年刊行することとし、ここに遅れ馳せながら2004（平成16）年度版を発刊する運びとなりました。

振り返りますと、過去には千葉キャンパスにおいて社会福祉学部のみの一学部一学科時代に発行していた実績もあり、また、みずほ台キャンパスの国際コミュニケーション学部では先ごろまで毎年「年次報告書」を発行してきました。このたび創立40周年の節目を経て、大学としての統一的な年報の刊行に踏み切ることとなったのは、まさに機が熟したというべきでありましょう。

2003年度からスタートが切られた大学改革の目標の一つも、これまでどちらかというところとキャンパスや学部による違いの方に目が向けられ勝ちであったものを、それぞれのキャンパスの強みを生かしつつ、一つの大学としての管理運営体制をより整備し、全学的な視点に立って教育研究や学生サービスの質の向上、入試・募集・広報等の総合的な展開を目指したものであります。その意味においてもこうした年報の果たす役割には大きいものがあるはずです。

なお本年度は4年に一度の第4回目となる学生生活実態調査が先に実施され、その報告書も刊行される予定です。併せて目下推し進めている改革・改善に役立てていく所存です。

本書の執筆・編集に尽力された各役職者並びに大学自己点検・評価委員会の各位に感謝の意を表します。